

東日本大震災被災地訪問

「大震災が起きたとき、私たちにできることは何か」「3.11」を教訓に災害時について考えようと、7月24日～26日、南部まちづくり協議会と港キッズクラブの共同企画により、港小学校児童と地域住民計43人が宮城県石巻市を訪問し、被災地の現地視察や地元の湊小学校の児童との交流をしました。参加したみなさんの感想をご紹介します。

子どもたちの感想

1. こ笛たいのえんそうがすごかった。石巻がつなみでひどかった。
2. ひさいちではがれきの山やもくざいの山がたくさんあり学校やこうじょうや家などがこわれており、どこまでつなみが来たかはわかりませんがすごいつなみが来たことが分かりました。いしのまきしりつみなと小学校のがっきのえんそうがとてもキレイでした。おにがわらのことをおしえられてよかったです。
3. 最初見たときはあまり被害したところはなかったけど、海側に近いほど津波の被害は大きかったです。湊小学校の体育館は床の木がいたんでいたり、壁がこわれていたりして津波のいりよくがはんぱじゃないと感じました。ですが、湊小の人たちはとても元気があったのでがんばっていると思いました。これからも元気に生きて欲しいです。
4. ひさいちはごみの山があったり家が少しこわれているところがあったけど、子ども達はみんな笑顔で早くふっきゅうしようと思ってがんばっているすがたがすごい伝わってきました。はじめの時は学校はどうなっているか心配したけど学校もあんまりこわれていなかった。子ども達も元気で安心しました。
5. 今日は石巻の子供達の鼓笛隊の練習を見学を見させてもらって金管バンドとはちがうはくりよくでスゴかったです。私は今日一番思い出に残った事があります。それは津波でのまれた車の燃料がもえて火事になってしまった小学校です。それでも笑顔で野球をやっていてスゴイと思いました。
6. がれきともくざいのやまがたくさんありました。がっこうがこわれていました。
7. わたしは、ひさい地を見て本当だったらきれいな町なのに地しんの1つや2つ、それにつなみの1つや2つでぜんぜんちがうので、地しんのおそろしさ、つ波のおそろしさが分かりました。こん回の事をわすれずにかぞく、友達などに今日の事を話したいです。
8. 地しんがおきたところから3,4分でふつうの町になるなんてびっくりしました。そっちはおみせがふつうに開いていて、なぜ地しんがおきたところとこんなにちがうのか知りたいです。たくさんいえが地しんでなくなったりしてかわいそうだなと思いました。つなみでいえがながされ、つなみは水なのに強いなと思いました。
9. バスをおりたときにいった海は、道がわれていたのであれでは生き物がかわいそうだなと思いました。それからかどわき小学校のグラウンドでやきゅうをやったので

10. 石のまきしみなど小学校は地しんがおきても、明るかったなと思いました。かどわきしょうがっこうも野球をグラウンドでして、すごいなと思いました。僕はテレビで東北はふっこうしているを見たけど、ぜんぜんふっこうしてなくてかわいそうだなと思いました。これからは高浜にいてまだふっこうはぜんぜんしていないんだと言いたいです。
11. ぼくはひさいちを見ていろんなことを思った。すごい何もない所とふつうの所でわかれててかわいそうと思った。石のまきしみなど小学校のみんなはすごいことを見たことをかわいそうだと思った。かどわき小学校のみんなもじぶんの小学校がつなみやじしんでボロボロになって、すごいかなしい気持ちになっているんだなと思いました。僕が高浜市にもどったらいろいろなことをかぞくや友達に言っているいろんな事を教えたいです。
12. 来て思ったことは福島県の人にはわるいことはしてないのに死んじゃった人はかわいそうと思った。でもこれからふっこうしていくからすごい。
13. 東北地方にきてまだこんなにたいへんなんだなと思った。かなしいことがいっぱいあったとおもうけどみんな元気であかるくて、そこはすごいなとおもった。そうぞうしていたふうけいよりもっとひどかった。テレビで見るのとぜんぜんちがった。わたしたちより元気いっぱいな気がするくらい元気だった。
14. 石巻市立みなと小学校のみんなが笑顔でわらっていたのでとてもうれしかったです。こてきのえんそうをきいて自分たちよりぜんぜんちがうなと思いました。そしてこてきのみんなにまけないぐらいの音のはく力さなどを出せたらいいです。かわらを作るとき、おしえた5人の男子たちがしんけんにつめいをきいてくれてうれしかったです。家をなくしてとても生活がかわったけど元気であいさつなどをしてくれてとても安心しました。でも心の中では、しんさいの日のことがのこっているかもしれません。少しでも力になれてよかったです。
15. 東北の湊小の子供たちは大震災にあったけれど笑顔で私達と変わらず元気でした。笑顔でいられるのは震災を乗り越えた強い心があったからだと思いました。町はだいぶふっこうしていましたがやはりつめあとが多くあり自分の目で確かめ地震は現実なんだと思いました。東北が早くふっこうしますように
16. 石巻市立みなと小学校の子やほかの学校の子もつらい思いをしているはずなのにみなと小のこてきの子はとても笑顔で楽しそうでした。目の前で家や人が流されるのを見ているのにえがおですごいです。今後もし、もくとうするきかいがあったらみなと小の子を思いうかべ、まわりにいる人以上にちゃんとやりたいです。
17. 今日すごく被害にあった学校やその周辺をみてすごく大変だったんだなあと思いました。同じみなと小のこてきをやっている子に合って練習を見たりして現地の人とすこしでもふれあうことができてよかったです。
18. ひさいした人もとても元気だった。テレビで見た時と全然ちがった。自分でもできることがたくさんありそうだった。苦勞が伝わっていてとても大変そうだった。私たちはしんさいを体験しているのにあんなに明るくてすごいと思った。想ぞう以上にひがいがひどかったし、家がなくなっている所がたくさんあった。

19. 今日はじめてのたいけんで東日本に行きました。自分が学校に行った時や家にいる時にこのようなじしんやつなみがきたらこわいなあと思いました。わたしがもしそういうひがいにあった時には、防災くん練や学校でならったしどうを思い出してあわてずにできたらいいと思います。
20. ぼくは今日はじめ見たときに、あまりたてものがこわれていなかったの、ふっこうが進んでたとおもっていたけど3,4分たつとたてものがポロポロになっていたりして、心がいたくなりました。言葉にできないような複雑な気持ちになりました。今日様子を見て改めてふつうの生活にかんしゃしようと思いました。そして今日じしんにすごさを見て、高浜市にもどったらじしんがおきたらどこににげるかどこにひげるかなど家族全員で計画をたてたいです。
21. テレビでみたよりはくりよくがあった。かわいそうだと思った。
22. ぼくたちのとちがめぐまれているのに福島やみやぎのこどもたちは家をなくしたり心や家族をなくした人もいることがわかった。学校もなくなってしまう学校もあった。とてもかわいそうだった。
23. 私は今日ひさい地に行きました。同じみなと小学校に行く間、とてもがれきのある山など見ました。船が海から出ていたり、電しんぼうがたおれていたりして、言葉では言えないくらいでした。学校ではみんな元気でとても楽しくおにがわらが作れました。今日のことをわすれずいろんな人に元気をあげたいです。
24. いしのまきしりつみなと小の子はじごくを見たのにこてきやいろいろな事に前むきにやっていてすごいと思いました。もしこっちにもじしんがきてもみなと小のように前向きにいきたいです。
25. いしのまきのみなと小学校のこてきは自分たちがやっているきんかんとはちがいだ楽器がたくさんありました。これからもまつりにむけてがんばってほしいと思いました。
26. すごいなと思いました。ごみが山みたいになっていたから。かわらづくりではあまりじょうずにおしえられませんでした。
27. ぼくが東北に来て思ったことは、つなみなどにあつて、こうしゃ内などが使えなくても川祭りに向けてこてきたいをがんばり、あきらめないでがんばっていたので、すてきなあとと思いました。
28. 僕はこのツアーに参加でき、とてもうれしくおもいます。3月11日に起きたこの「東日本大震災」では、ちょうど体育をやっていて体育館の中心に集まりました。それほどのゆれはなかったので大丈夫かなと思ったんですけど家にかえってのはじめてその地震が強力だったことが分かりました。そして今日のツアーで東北にいてみてはじめて分かりました。さいしょは「大丈夫かな」と思い走っていたら一気に景色が一変したことにビックリしました。そして湊小学校に行きました。そこでは津波のじごくを見てきた子たちが体育館でえんそうなどのれんしゅうをしていました。そして自分たちがいくと目の前で頑張つてえんそうしてくれていました。きんちょうの気持ちもあるし、かなしくてつらい気持ちもあったとおもうのに頑張つていいえんそうをきかせてくれました。やっぱりテレビでみていたのとじっさいに見たりしたのではぜんぜんちがいました。やっぱりこうゆう大きなことがあつてたくさんの人がつらくてかなしい気持ちをもつてるということを学んでおくべきです。そしてこのことを自力で受け止めておくべきだと思います。このあたりでも近いうちに「とうなんかいじしん」がくると言われています。なのでそのお亡くなりになった人のためにも自分たちが精いっぱいがんばらないといけないと思います。

大人の参加者の感想

1. みんなが自分の身を守る、家族の身を守る。自分が倒れた時は誰がやってくれるのか？若いお母さん達も学んで欲しい。一人でも多くの方が興味を持ってもらいたい。
2. 1 年前に釜石に行った時は、家の跡地に×印がつけてあった。家人を捜したけどいませんの意味だそうだけど、石巻にはなかった。前回はいろんな人と話をして泣けたけれど今回はみんな明るくやってみえた。復興はまだまだだけど力に何かできたらと思う。
3. 湊小の先生が話してくれた。何か手伝いたい、自分でできることは…？現地へ行く事は出来ないけどできる事は…？「幸せは何ですか？」との問いに対してホシ校長先生は「日常が幸せです」と言われたけど彼らにしか分からない。日常が当たり前でない人がいる。勉強も運動も。遊具もない。日常を大事にして勉強、運動、友達と仲良く遊ぶ、それが大事な事だと強く感じる話でした。
4. この場所で亡くなった方がいることを忘れないで。
5. 校長の言葉、鼓笛の音で涙が出そうになった。「この子たちは地獄を見たんですよ」3 階の上からその地獄を見た子は高浜の子と違うと思う。自分の事仲間を大切に、それが大事な事です。
6. 伊勢湾台風を 14 歳の時に体験した。母の実家が流され 7 人流されておじいさんとおばあさんが亡くなった。避難勧告が出ていたのに…。「まあいいわ」というのはダメ。今回の被災地はこんなに大規模で、伊勢湾台風の時の事を思い出して胸が詰まった。
7. 阪神淡路大震災の時に、姉が中心部にいて現地へも入った。家でも家族で今回の事や災害時の事など話をして欲しい。
8. 目で見て感じる事ができた。
9. 小学校の時計の時間や校舎を見て涙。わざわざ来てくれた鼓笛も良かった。臭いも独特だった。
10. 自分が前回東北を訪れて 4 ヶ月経っても何も変わってない。草が賑わせているだけ。(草が生えているだけ)。石巻市の町の中はどうもない感じだけど、何も変わってない地域がある。ホット横丁は普通だけど紙一重で違う。陸前高田は町ごと無くなっている。石巻はまだ良い方だろう。ひばりが丘の所はキューブでもやっている。門脇小学校の校舎の色にド肝を抜かれた。
11. 私たちの住んでいる地域は必ず地震が来る。今の子どもが生きるこの時代に必ず来る。津波の時は高浜小学校へ。3 町の避難所は海拔 2~3m だから逃げないといけない。二池町には断層がある。この東北の惨状をよそ事と思わないで欲しい。
12. 娘が震災の 3 月 11 日に茨城県のつくば市にいた。すぐ携帯で連絡を取り合ったが私もパニックになった。でもまち協で防災を勉強させてもらっていたおかげで娘にいろんな指示を出す事ができた。親もいろんな勉強をして子どもに教えるべきだと思う。
13. 私は碧海町に住んでいて、この 10 年くらいの間に 2 回ほど避難勧告が出たことがあった。でも義母が「ここを動きたくない、死ぬならここで死ぬ」と言うので避難をしたことはなかった。今になって考えると無理にでも義母を連れ避難するようにした方が良かったと思っている。